

中退防止に向けて

- いま、学校ができること -

はじめに

中退防止のために取り組んでいる実践例 1 p

- 1 A高等学校 …… 荒れた学校の3年をかけた再建の軌跡
- 2 B高等学校 …… 新入生研修年度当初プログラム
- 3 C高等学校 …… 学校組織としての取組

中退防止のために学校ができること

…各校の創意ある取組 4 p

- 1 新入生への早期適応指導
- 2 生徒の学習意欲を高め、基礎学力をつけさせるための授業改善
- 3 問題行動を契機とした中退の防止
- 4 不登校生徒に対する支援（学校の居場所づくり）
- 5 発達障害の生徒への支援
- 6 教育課程の見直しと単位認定
- 7 学校の相談体制と指導体制（意識改革・研修）
- 8 中途退学者に対する支援と指導
- 9 保護者との信頼関係の構築
- 10 用語解説

中退の要因および背景 6 p

- 1 態様別要因
- 2 中退に至る事例の背景（描写）

中退者の実態 9 p

- 1 年度別推移
- 2 学年別人数
- 3 中退の理由の推移
- 4 中退者「入学時の様子」
- 5 退学後の状況

表記の統一性のため、中途退学を「中退」と表記しました。

はじめに

本県では、高校への進学率が98%を超えるなか、各高校がそれぞれ工夫ある教育活動を展開し、高校教育の目的を達成させるために努力をしております。しかしながら一方では、毎年、大規模高校一校分程の生徒が、志半ばで学校を去っていることも事実であります。

平成14年4月に長野県教育委員会では「中退の防止及び中退者への指導」の資料集をまとめ各学校に配布をいたしました。その後、各学校での前向きな取組により中退者の比率も暫時減少してまいりましたが、平成17年度からは再び増加傾向にあります。

全国では、毎年10万人を超える高校中退者のみならず、5万人強の大学中退者数も報じられています。中途退学が課題となっている多くの高等学校では、“学びの場からの逃避”をはじめ多様な中退の現状を理解し、学校組織として生徒指導のあり方や教育相談体制を常に検証しながら支援や指導のきめ細かな方策を立て取組を進めております。

この資料集では、近年の中退者の傾向や背景を探り、中退を抑制するための予防的・開発的な取組を積極的に実践し、効果が現れている県内外の学校から参考となる創意ある実践例を提供していただきました。魅力ある学校づくりを模索しながら日常的な授業改善をはかるとともに、教育相談の進め方や従来の中退者の見直しにも言及しています。また、地域、関係機関との連携や保護者との信頼関係の構築の実践も例示しました。

中退者の追跡調査からは、直後に進路が定まらなかった多くの者が学校の支援により就職や進学をしている一方で、「中退者の1割程度にあたる家居者のうち約半数が1年半後も何もしていない、できないでいる」というデータも発表されています。中退者のこれからの人生を支援し、「高校での学び直し」や「再スタート」の機会を保障することが求められています。

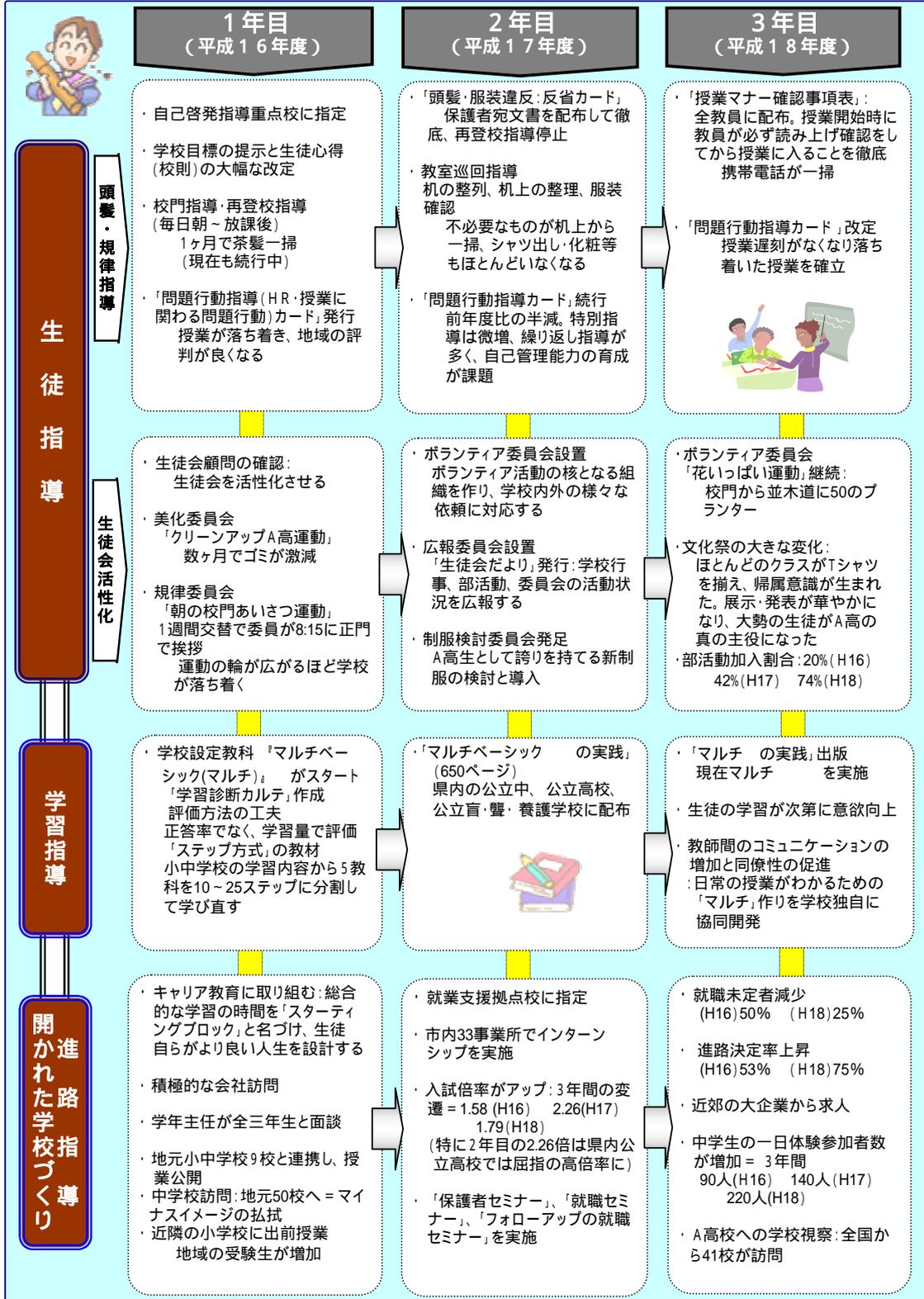
この資料集をそれぞれの教育の場で、ご活用いただくことを願うものです。

平成20年2月

中退防止のために取り組んでいる実践例

1. A高等学校 荒れた学校の3年をかけた再建の軌跡

2年連続の定員割れ、遅刻早退は常態化、校内の器物破損も著しく、地域住民からは「A高をつぶせ」とまで言われた程であった。しかし、生徒指導・学習指導・進路指導を有機的に結合させ、ステップアップのためにPDCAサイクルを作りあげたことで、教員の共通理解が図られ、当事者意識が向上した。荒廃した状況下にあったA高等学校は3年間をかけて生まれ変わり、中退者数は平成16年度の87名から平成18年度は23名に減少した。



マルチベーシック: 国語・地歴・公民・数学・理科・英語の学習内容を義務教育まで遡って、A5判の教材=ステップ1(基礎基本)、2(標準)、3(応用)の演習問題にまとめ、各教科の「診断カルテ」を作成し、どこまで分かり、どこから先が分からないのか判断できるようにした。4クラス同時展開で12名の教員が協力し、授業に取り組む姿勢を身につけさせるようにした。

2. B高等学校 新入生研修 年度当初プログラム

研修目的: 高校入学にあたり、自己の可能性を伸ばす具体的な生活像を描くとともに規範意識や社会常識を身に付ける。

<日程>

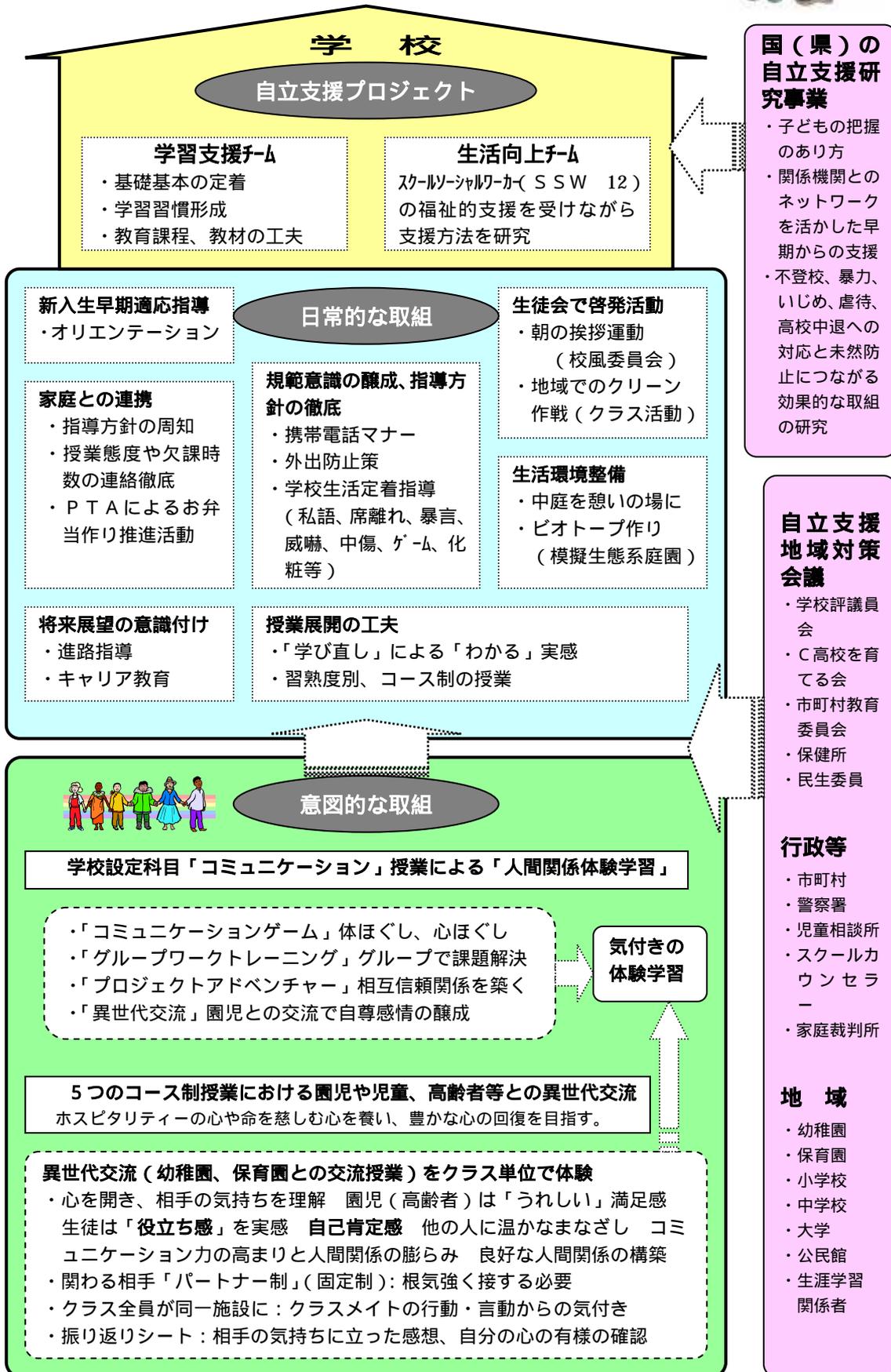
	4月6日(金)	4月9日(月)	4月10日(火)	4月11日(水)	4月13日(金)
午前	1, 2時限 LHR 対面式	通常授業	通常授業	通常授業	1時限 LHR 2, 3時限 実力テスト
テーマ	学校生活	学習指導・集団指導	生徒指導	進路指導	健康・メディア教育
4時限	12:40～13:10 校歌指導	集団規律・マナー HR～視聴覚室	校歌歌唱 懲戒規定説明 (教頭)	12:40～13:10 進路目標 (HR)	校歌歌唱 12:50～13:30 保健・健康指導 (保健所)
5時限	生徒指導写真撮影 (LHR)		校歌歌唱	13:00～ 生活安全・交通講話 (警察署)	13:20～校歌歌唱
6時限		資格取得説明 (資格委員会)	14:00～15:00 服装について講演 (服飾関係者)	13:30～14:20 進路講話 (ジョブカフェ信州)	クラブ紹介
	単位認定、科目、 コース選択説明 (学習HR係)	レポート	14:30～15:00 キャリア学習、インターンシ ップの説明	レポート	

<内容>

	研修	担当	内容
	校歌指導(1学年)	音楽科・国語科	・歌詞の意味を理解させ、斉唱指導を行う。
	集団規律(1学年)	研修プロジェクトチーム 学習HR係	・集団規律や時間、マナーについてグループ行動による校内オリエンテーリングなどを通して学ばせ、仲間づくりを行う。
	校歌歌唱(1学年)	音楽科	・愛校心や連帯感を育むことを目的に、研修の始めに校歌の歌唱指導を行う。
	資格取得説明	資格委員会	・校内で作成した「資格カレンダー」を用いて、在学中に取得可能な資格について説明し、キャリアアップへの動機付けを行う。 ・専門科の学習について努力目標や具体的なイメージを持たせる。
	単位認定、科目、 コース選択説明 (学習HR係、各科)	学習HR係	・高校における単位認定の仕組みや成績評価について中学校との違いを認識させる。また2年次以降の科目選択、コース選択などの説明、各科から授業内容や勉強方法について説明を行い、学習姿勢の意識づけを図る。
	レポート(担任)	研修プロジェクトチーム 担任	・毎日の研修内容をレポートにまとめさせ、短時間に要領よく書けるように、記入項目などは工夫して指導を行う。
	懲戒規定説明(教頭)	生徒指導係	・生徒指導規定及び懲戒規定について説明し、周知を図る。「高校生活のしおり」を参考に。
	生活安全・交通講話 (警察署)	生徒指導係	・警察の立場から法律や社会的視点に立って、喫煙・万引き・窃盗・交通法規などの問題について講演をいただき、規範意識を育む。
	服装についての講演 (制服業者)	生徒指導係	・制服業者より制服の意義や着こなしによる印象について講演をいただき、制服を正しく身に付けることの大切さを意識づける。
	進路講話 (ジョブカフェ信州キャリア コンサルタント)	進路係	・本校卒業生の進路決定状況を知り、高校卒業時の進路選択と展望について外部講師により講演をいただき、自らの将来ビジョンをイメージさせる。
	キャリア学習、インターンシ ップの説明(進路係、教頭)	進路係	・本校のキャリア教育の特色と長所を説明し、専門分野の学習や社会参加への動機付けを図る。
	保健、健康指導 (保健所)	保健係	・飲酒、喫煙、薬物などに関する講演により健康への自覚を持たせる。
	携帯電話・ネット犯罪 防止講演 (NPO団体代表)	研修プロジェクトチーム	・専門家の講演により携帯電話、ネットに絡む様々な落とし穴や犯罪について学ぶとともに、携帯電話のマナーなどについても考えさせる。 ・保護者にもパンフレットと講演案内を出し、啓発を行う。
その他	交通安全指導	生徒指導係	・例年4月～5月に行われている交通安全指導を、新入生研修にあわせて実施する。(朝の立番指導等を含む)

3. C高等学校 学校組織としての取組

地域社会の協力を得ながら意図的に異世代交流を位置づけ、コミュニケーション能力を育む人間関係体験学習等により生徒の自尊感情を高め、中退防止をはじめとした様々な教育課題に取り組んでいる事例



中退防止のために学校ができること・・・各校の創意ある取組

中退者を減少させるために、各校が課題を整理し多様な生徒の理解に努めている。新入生への早期適応指導や、授業で達成感を抱かせるための学習支援のあり方のイ・ロ・ハから見直しをはかっている例など多彩である。チームで取り組み、関係機関との適切な連携によって中退防止の成果をあげている例が多い。これらの創意工夫ある指導支援の姿勢に学ぶことは、各校で中退者を減少させる取組の一助になり、明日からの教育活動のヒントになる。

	取組事項	創意ある取組例	
1	新入生への早期適応指導	<p>「新入生研修プログラム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション週間や新入生合宿の設定 (p 2 ・ p 3) ・人間関係づくり (S G E 1 ・ワークショップ等) ・規律指導 	<p>卒業生による講話</p> <p>早期の個人面談</p> <p>帰りのSHR (実情をふまえて毎日設定)</p> <p>挨拶運動や環境美化運動 (生徒会活動と絡めて企画)</p>
2	生徒の学習意欲を高め、基礎学力をつけさせるための授業改善	<p>授業への取組方、授業中のルール説明</p> <p>授業中のリラクゼーション&弛緩法 2 の研究と実践 (生徒の学習心理をつかんだ指導)</p> <p>生徒参加型 (動き・変化のある)</p> <p>授業展開の研究と積極的な導入</p> <p>達成感を与える授業展開と地域・異年齢との関わりが持てる授業 (p 1 ・ p 3)</p>	<p>有機的な学習集団の構築 (例：生徒間での試験予想問題づくり、教え合い、学び合い)</p> <p>教育相談的授業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褒める・叱るバランスのスキルアップ <p>校内授業研究&公開授業による指導力向上</p> <p>生徒による授業評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業満足度評価、Q-U 3 の活用
3	問題行動を契機とした中退の防止	<p>自己抑制と自己と他者理解の方法の提示。</p> <p>(例：アサーショントレーニング 4 ・ロールプレイ 5 ・ロールレタリング 6 等の活用)</p> <p>「反省指導」・「懲戒処分」のガイドラインの周知徹底</p>	<p>登校反省指導の充実</p> <p>教育相談・生徒指導方針の点検と内規の見直し</p> <p>家族への支援的働きかけ (家庭訪問等の工夫)</p> <p>リーガル・マインド 7 に沿った指導法の研究と実践</p>
4	不登校生徒に対する支援 (学校の居場所づくり)	<p>校内相談支援体制の充実</p> <p>家族への働きかけ方の工夫</p> <p>来談生徒中心の教育相談週間の設定 (年数回)</p> <p>担任と関係職員の家庭訪問 (ケースによっては併行面接)</p>	<p>不登校支援機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県機関&中間教室、民間団体 <p>巡回訪問指導員の活用</p> <p>「ピア・サポート」 8 の研究と授業実践</p> <p>生活支援チームの運営 9 (本人と家族を支援)</p>
5	発達障害の生徒への支援	<p>適切な生徒理解と対応 (校内外の研修)</p> <p>校内の生徒支援体制の充実 (仮称：エジソン委員会 10)</p> <p>中学校・教育事務所・特別支援学校及び総合教育センターとの連携</p> <p>福祉事務所・保健所・精神保健福祉センターの相談と連携</p> <p>ハローワークとの連携</p>	<p>保護者との教育相談の充実 (特別支援教育コーディネーター 11 の確保)</p> <p>スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカー (S S W 12) の活用</p> <p>人権教育を基底にした「発達障害」に関する、一般生徒・保護者に向けての啓発活動</p> <p>発達障害の生徒の個別プログラムを作成</p>
6	教育課程の見直しと単位認定	<p>魅力的で特色ある学校設定科目の設置 (例)</p> <p>「コミュニケーション」 (p 3)</p> <p>「人間関係づくり学習」</p> <p>「マルチベーシック」 (p 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の回復や達成感の得られる指導 (p 1 ・ p 3) 	<p>就業体験やキャリア学習の充実</p> <p>人間としてのあり方生き方教育、命の教育の充実</p> <p>生徒の状況を考慮した単位認定の弾力化 (生徒を追込み過ぎない)</p>

7	学校の相談体制と指導体制 (意識改革・研修)	<p>教育相談室の確保、チームとしての支援機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 「相談室だより」の発行 生徒・保護者向けに各々発行生活指導通信の発行 “個人、集団を褒める・良い所を見つめる”等の通信内容の工夫 時々生徒の声(意見)を掲載 	<p>教育相談研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・スキル 13の獲得、集団や個別指導の相違、男女の性差による指導等の研修を工夫 休学者への適切で継続的な指導 生徒指導や相談活動に取り組む実践校からの学び(書籍・学校訪問・講師招聘等)
8	中途退学者に対する支援と指導	<p>多様な進路に向けての総合的な支援に関して、職員相互や他校・県関係機関との情報共有</p> <p>対象者や家庭との緊密な連絡体制により、信頼関係を構築し、必要な情報の共有</p> <p>関係職員による定期的な連絡や家庭訪問</p> <p>定時制、通信制高校(公私立)編入の助言指導</p> <p>高校卒業程度認定試験(8月、11月)への指導助言</p>	<p>就職支援に関わる関係機関と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク ・ジョブカフェ信州(県商工部) ・県立技術専門学校 <p>リーフレット『新たな進路のために』 “退学後の各種相談窓口の案内”(県教育委員会)を参照</p>
9	保護者との信頼関係の構築	<p>保護者の願い・気持ち等を傾聴</p> <p>信頼を深める計画的な家庭訪問の実施</p> <p>家庭や個人に配慮した言葉遣いや態度に留意</p>	<p>保護者と親睦スポーツ大会の実施、文化祭等に保護者の協力要請を依頼する際の親和的関わり</p> <p>保護者会にSGEやゲームを取り入れ、懇親と信頼感の構築</p>
10	用語解説()	<ol style="list-style-type: none"> 1 SGE: Structured Group Encounter の略。訳は「構成的グループエンカウンター」である。参加者同士の心のふれ合いを目的とする。エクササイズの内容・順番・時間配分等をファシリテーター(リーダー)が指定する。 2 リラクゼーション&弛緩法:授業に集中させる為の瞑想、呼吸法、自律訓練法をいう。 3 Q-U Questionair - Utilities:同級生との関係性を質問紙「楽しい学校生活を送るためのアンケート」によって行い、学級特性を認識し、いじめ、不登校の予防等に役立てる。都留文科大の河村茂雄教授が提唱している。 4 アサーション・トレーニング Assertion・Training:相手の立場や権利を侵すことなく、自分の意見・感情・権利を抑圧せずに適切に表現する行動の訓練である。自他と他者を公平に尊重することが前提となる。攻撃的ではない自己表現を練習する。 5 ロールプレイ Roleplay:ロールは役割、プレイは演技を意味する。相手の立場に立つことで、自己と他者の気持ちの違いが理解でき人間関係の改善につながる技法。 6 ロールレタリング Role Letterring:カウンセリング技法を基礎にしており、例えば、問題行動の加害生徒が被害生徒の立場で文章を綴ることで、相手の気持ちが理解できるようになる心理的効果が認められる。 7 リーガル・マインド Legal Mind:教師が生徒の理解、支援、指導にわたって一般社会の事象を常識的に認識し、社会通念上からみて論理的かつ公平であり相対立する利益を調整することができる総合的な判断能力のこと。 8 ピア・サポート Peer Support:peerとは「仲間、同級生」を意味する。普段は教師から学ぶ存在の生徒が、自分たち同士で教え合い、助け合うような関係になること。 9 生活支援チーム:担任・養護教諭・スクールカウンセラー・保護者・相談員・不登校の会の方等で組織する。状況によるが、1週間に1回程度家庭訪問をする。 10 エジソン委員会:発達障害生徒の支援NPO組織に「えじそんクラブ」がある。発明王エジソンがAD/HDの傾向を示していたことに由来する名称とのことである。校内委員会の名称例として考えられる。 11 特別支援教育コーディネーター:発達障害の生徒の支援には複数の教職員が関わる支援チームが必要不可欠である。その際、支援方法等についてやコーディネート(調整)をする人。高等学校においてもH20年度より各校に位置づけることとなった。 12 SSW School Social Worker:スクール・ソーシャル・ワーカーは生徒への直接の支援だけでなく生徒や学校を取り巻く環境システムへの働きかけを行う。この場合、家庭や学校、地域社会も含む。方法論の基底には生徒の人格、価値観を明確に据えて、病理だけでなく生徒がもつ可能性に着目し、能力を十分に発揮できるように支援する。 13 ソーシャル・スキル Social Skills:元来、人が良好な関係を形成し、それを維持していくために必要な知識や人間関係に関する具体的なコツや技術を総称したものを、トレーニングが必要である。それをソーシャル・スキル・トレーニング(SST)という。 	

中退の要因および背景

1 態様別要因

近年の中退の理由として最も多いのが「学校生活・学業不適合」「進路変更」である。1年生が約半数を占め、男子の比率が高い。女子は学年が進むにつれ割合が高くなる。中退に至る各個人の経過は多様であり、各学校からの報告を受けて最近の傾向を5つに整理した。

実際には複合型が多く特定はできないと思われるが、中退に至る要因や背景から、そのどこに課題があるかを探るとともに、本資料の1ページから5ページを参考に、適切な支援や指導のあり方を考えるきっかけとして欲しい。

- (1) 無目的入学、不本意入学
- (2) 学校生活・学業不適合、怠学傾向、基本的な生活習慣の欠如
- (3) 人間関係(コミュニケーション)の取り方が不十分
- (4) 積極的な進路変更
- (5) 事例からみる不登校

2 中退に至る事例の背景(描写)

(1) 無目的入学、不本意入学

高校進学にあたり、中学校時代から日常的に十分な学習ができていない。

- ・高校で何を学ぶかより、どこに入学できるかを判断し、努力せず現状のまま入学可能な学校を中心に選ぶ傾向がある。

家族が強く高校進学を勧めたので、渋々ながら高校へ進学した。

- ・高校進学を果たした後、いわゆる学習へのモチベーションが低いため、学習の困難さや一過性の人間関係のつまづきを契機に学びの場から遠のく。
- ・思い描いた進路選択ができなかったことに対して、気持ちの整理ができず、入学した高校での意欲をなくし、高校以外に居場所を求める。

(2) 学校生活・学業不適合、怠学傾向、基本的な生活習慣の欠如

入学時には学習意欲がみられたが、しだいに学習意欲を失うとともに高校の生活に馴染めなくなる。

- ・無目的・不本意入学と重複する傾向がある。中退の要因として最も多い。
- ・学習内容に魅力を感じる事が少なく、達成感が得られない。

遊びやアルバイトに興味に向かい、学習習慣が身に付かない。

- ・中学に比べ、放課後の自由時間が増え開放的になる。バイクに関心を示したり、ケータイ等を通じて交友関係が広がったりする。
- ・アルバイト経験によって自分で使える金銭を持つことで、自立した気持ちになり興味関心が学習以外に向かう傾向がある。

問題行動により度重なる指導を受ける。

- ・問題行動に至った自分を見つめ直すことができず、学校の価値観よりは進路変更をして働いたほうが自分のためになると考える。自暴自棄に陥る部分もみられる。

安易な留年、休学を選ぶが、学習意欲が起こらない。

- ・ 欠課時数が規定を超え、単位不認定に至るが、冷静な振り返りがないうままに留年を選択する。

(3) 人間関係(コミュニケーション)の取り方が不十分

他からの心理的圧迫により、人間関係をつくれない場合。

- ・ 日頃の人間関係のもつれ等から、からかいやいじめが起こる。多くは自己対複数であり孤立無援になることが多い。過剰な心的反応から被害妄想に陥ってしまうこともある。
- ・ 自分の存在を否定されるようないじめを受けた場合は、緊急避難的に学校に行けなくなる。親や教師が気付いたときには、既に対人関係の修復は大変困難なことになりがちである。こだわりやトラウマが強い場合は同級生や同学年の生徒、さらには同世代の人とは話ができなくなることもある。育ちの過程で、他者と関わる方法や、様々な人と生きていく協調性等を十分に学べなかった場合。
- ・ 幼少期からの親の接し方が過干渉であったり、暴力的であったり、わがままに任せていたり、厳格すぎると、思春期以降の対人関係に不安や混乱が生じることがある。
- ・ 保護者自身が課題を抱えていたり、潜在的な発達過程上の人間関係の問題を抱えていたりする場合は、生徒の対人関係能力は育たないことがある。
- ・ 家族から程よい対人関係モデルを身につけられなかった場合でも、学校で友人や教師から学習して身に付くことはあるし、様々な所属グループから学ぶことや修正もできる。しかし、思春期や青年前期の学校時代に十分体得できなかった場合、高校以外の疑似家族的な関係をもつ仲間や集団に関心が向く傾向があり、時として学習を継続することに価値を見出せない場合がある。

発達障害や心理的不安によりコミュニケーション不全に陥る場合。

- ・ 発達障害に対して適切に支援されていない場合、その行動や言動が周囲から理解されなかったりすることで自己肯定感が満たされなくなる。自分が困っているという認識があっても、うまく表現できず、孤立感や自尊心の低下がみられ、抑うつ、引きこもりや非行などの二次障害が起きることもある。
- ・ 不安や葛藤が強くなり、情緒の安定が図られなくなると、円滑な対人関係に支障をきたす。将来への展望をもてなくなったり、疑心暗鬼になったりして、強迫観念が強くなりがちである。家族や周囲から孤立する一方で、理解を示す人には共依存関係を強く求めることがある。

(4) 積極的な進路変更

高校進学後、自分の生き方を考え、新たな進路を選択する。

- ・ 生徒の高校中退理由の深層はなかなか把握が困難である。「中退の理由を理解されなくてもよい」という思いがある反面、「今の状態からの変化を求めている自分を心底理解して欲しい」という願望があり、その葛藤を繰り返している。

高校で学ぶことより、自分が思い描く進路への可能性を追求する。

- ・高校入学以前から考えていた夢の実現や、理想的な生き方をするために、周囲を積極的に説き伏せてチャレンジしようとする。その意味では特異な例であるが自己決定をすることは成長の過程でもある。高校在学中に果敢に試験を受けたり、団体に属したりする。希望の職業等が自分の居住するところにないため、中退を選択することになる。音楽学校や漫才の興業会社のような芸術・芸能関係やスポーツ界、職人の世界にトライする生徒などはその一例である。

(5) 事例からみる不登校

本人に関わる問題による例

- ・先生や同級生の前ではその場の雰囲気や状況を敏感に察し、理想的な生徒でありたい、褒められたいと必死であるが、挫折時の気持ちの落差が大きく、長期欠席・不登校の要因になる。
- ・登校することに対して心の葛藤が心身の諸症状として現れ、通院が必要になる。普段、家では夜中までゲームやインターネットに没頭したり、いわゆる昼夜逆転になったりの生活になりやすい。
- ・自分の考えと違う現実を悩みを抱えたり絶望したりすると、気分の落ち込みが大きく、容易に立ち上がれないこともある。自分が思い描いた将来を固定的に考えてしまい、現実とのギャップから、様々な生き方を受け入れられない心理状況になる。

学校に関わる問題による例

- ・学校、教師、校則、試験などに拒否感を抱いていることが多く、自分が否定されてきた感覚が重なり、自尊感情・自己肯定感が極端に低く無気力になりがちである。
- ・学校が強迫的な存在になり、登校が大きな負担で、他のことが考えられない。
- ・登校はしていたが、欠課時数が増えてしまい、単位認定されるか心配である。原級留置や進路変更になりそうなことに大きな不安を抱き、どうしたらよいか途方に暮れている。

家庭に関わる問題による例

- ・親子関係を中心に、家族内の支援的な人間関係が薄いので、学校では同級生などとの関係によりつまづきや傷つきが起きやすい。
- ・家族が登校を強く迫るが、かえってひきこもり傾向になり、時には家族に暴力を振るうこともある。また、周囲に理解されないことで、自己否定感情が強くなり、自分を傷つける行動にでることもある。
- ・父親が不在がちであったり、存在感が薄かったりする場合、登校へのエネルギーが出にくいことがある。家族内のいさかいが多い場合にも、同様のことがある。

中退者の実態

1 年度別推移

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
中退者数(人)		1,329	1,104	1,047	853	847	919
前年比(人)		51	225	57	194	6	72
中退率 (%)	県	2.2	1.9	1.9	1.5	1.6	1.7
	全国	2.5	2.2	2.1	2.0	2.1	2.2

2 学年別人数

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
1年生	681(51.2)	89(53.4)	532(50.8)	428(50.2)	424(50.1)	483(52.6)
2年生	435(32.7)	56(32.2)	341(32.6)	275(32.2)	285(33.6)	280(30.5)
3年生	148(11.1)	14(10.3)	108(10.3)	114(13.4)	81(9.6)	95(10.3)
単位制	65(5.0)	45(4.1)	66(6.3)	36(4.2)	57(6.7)	61(6.6)

(注)定時制4年は3年に含む。(%)内は構成比

3 中退の理由の推移

(1) 中退の理由(%)

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
学校生活・学業不適應	50.0	49.2	50.2	54.8	50.8	53.9
進路変更	33.4	30.7	29.2	25.8	29.5	25.6
学業不振	6.2	5.3	5.1	5.0	5.9	4.7
その他	10.4	14.8	15.5	14.4	13.8	15.8

(注)その他には、病気・怪我、死亡、経済的理由、家庭の事情、問題行動等を含む。

(2) 学校生活・学業不適應の内訳(%)

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
対象人数(人)	665	543	526	467	430	495
もともと学校生活に熱意がない	25.4	24.9	26.6	19.1	19.8	17.4
授業に興味がない	27.5	33.3	31.8	32.0	29.7	32.3
人間関係がうまく保てない	13.5	14.2	13.1	19.1	19.8	15.6
学校の雰囲気合わない	9.2	10.1	8.9	10.5	14.0	13.3
クラブ活動の挫折、生活の乱れ、その他等	24.4	17.5	19.6	19.3	16.7	21.4

(3) 進路変更の内訳(%)

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
対象人数(人)	444	339	306	220	250	235
別の高校へ入学を希望	22.5	20.9	24.5	22.7	25.6	26.0
専修・各種学校への入学希望	6.5	9.7	7.5	10.0	8.8	7.7
就職を希望	50.0	42.5	45.1	35.9	42.8	42.6
高卒程度認定(大検)受験を希望	15.5	17.4	12.4	19.1	14.4	12.3
留学、結婚、大学合格、その他等	5.5	9.5	10.5	12.3	8.4	11.4

4 中退者「入学時の様子」(%)

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
希望入学	66.8	67.2	70.7	71.5	74.2	77.2
無目的入学	19.6	19.5	18.9	12.7	12.2	12.4
不本意入学	13.6	13.3	10.4	15.5	13.6	10.4

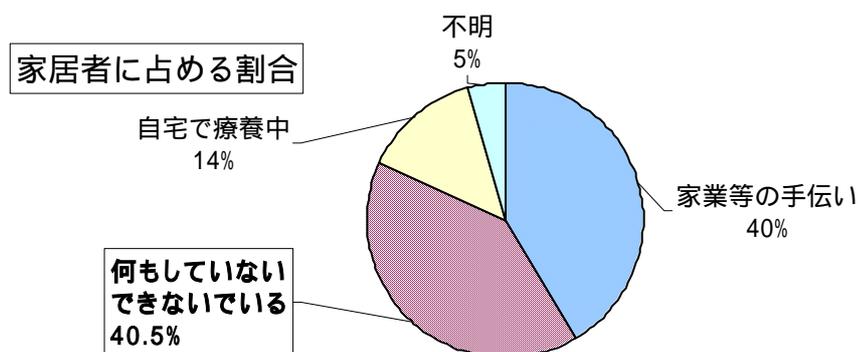
5 退学後の状況

(1) 平成16年度の中退者のその後の動向(%) (中途退学者追跡調査より 対象は853人)

	求職中	進学準備中	就職	通学(進学)	家居	その他
16年度退学直後の状況	19.2	19.8	41.8	3.5	8.4	7.3
1年半後・18年度秋の状況	3.6	2.6	52.0	22.7	13.0	6.1

(2) 平成16年度公立高校中退者のうち1年半後に「家居」(13% : 111人)の内訳

	家業等の手伝い	何もしていない、 できないでいる	自宅で療養中	不明	合計
男子	17	24	4	3	48人
女子	29	21	11	2	63人
合計	46	45	15	5	111人
家居者に占める割合	41.4%	40.5%	13.5%	4.5%	100%
全退学者に占める割合	5.4%	5.3%	1.8%	0.6%	13.0%



お問い合わせ先

長野県教育委員会事務局 教学指導課

電話 026-235-7436 (直通) E-mail kyogaku@pref.nagano.jp